

全国初の全館湿度調整

西澤病院の改修完了

飯田市本町四の医療法人龍川会西澤病院(西澤良吉院長)は昨年秋から進めてきた大規模改修を終え、本格稼働が始まる。介護療養型病床が従前の七十二床から百十一床に増えたほか、全館へのスプリンクラー設置や全室喀痰(かくたん)吸引装置を完備。さらに三月末までに調湿度装置を設置する予定など、全国に先駆けた住環境を整える。

東棟(新病棟)を鉄筋五階建てで新たに建設し、西棟(旧病棟西側)の内外改修を行った。調湿度装置の設置は病院施設としては全国でもほとんど初めての取り組みで、冷暖房効率も高まる。装置は

ダイナエアー社の製品を採用する。大規模改修は、重度の介護を要する高齢者の受け入れ施設が地域内で不足している現実を立ち、とりわけ介護療養型病床の絶対的な不足を解消するため実施した。

西澤院長は「介護療養型病床の不足は結果的に一般病床(医療病床)の不足も招いてしまう。また飯伊医療圏の病床数は全国平均に照らして非常に少ない」と深刻な実態を指摘。介護療養型病床の充足は急を要する課題だと唱えてきた。広域調整を踏まえて実施した今回の大規模改修によって、飯伊が安定した定住圏を構築できる

改修の完了にともない高羽町にあった仙水堂医院(介護療養型十九床)はいったん休止として本院に機能統合。近い将来別の介護施設として転用することも検討している。

また産婦人科医療については現在、妊婦健診を行い分娩は中止しているが、近い将来出産までの診療を再開したいと考えている。



改修が整い住環境が充実した西澤病院

2010年2月14日(日)発行
『信州日報』

2010年2月14日(日)発行
『南信州新聞』

介護医療型病床を増床

西澤病院 増改築工事が完了

飯田市本町の医療法人龍川会西澤病院(西澤良吉院長)は2年越む、旧病棟の改修と新



改修、増築工事が完了した西澤病院

延床面積は以前の約2000平方メートルから約3200平方メートルへと増築し、西棟(旧病棟)と東棟(新病棟)を渡り廊下でつなぐ2病棟体制で運営を図る。同病院は介護分野を中心に展開しており、これまで72床だった介護療養型病床は、吸収合併した仙水堂医院、同市今宮町・同法人運営の病床数も含め39床を増床して計111床に拡大した。

またこれを機に、全館にスプリンクラーや散水栓も完備。全病室に喀痰(かくたん)の吸引装置も設置した。さらに室内環境における湿度管理の必要性を重視して設置予定の全館調湿度装置は、全国の一般病院に先駆けて導入する方針で、3月末までには設置が完了する見込み。なお、今回の増改築工事で吸収合併した仙水堂医院は休止し、介護施設としての転用を検討している方針だ。

療養病床の行方が不透明であり、全国的にも、各医療機関が療養病床を医療病床に交換、または廃止する流れがある中で、特に飯田下伊那地域におい

経験から、一般の方が自宅で介護する苦勞を感じている」と療養病室の必要性を語るとともに、「今回の増改築を

経緯から、一般の方が自宅で介護する苦勞を感じている」と療養病室の必要性を語るとともに、「今回の増改築を

炭からリサイクル施設が竣工

松川町 南信サービス 民間で全国初

産業廃棄物の汚泥処理を手掛ける松川町元大島の南信サービス(竹村昇一社長)は13日、汚泥リサイクル施設を竣工した。汚泥から炭をつくる仕組み。同社によると、民間で全国初の産業廃棄物の適性処理を通して「高度な環境保全に取り組む」としている。同リサイクル施設は1月末までに完成し、造り地下1階、地上4階建て(延べ約5000平方メートル)の1つである流動床式炭化炉によって汚泥を粉状にし、炭として再利用する。セメントの原料、建設骨材、肥料、活性炭、融雪剤、脱臭剤としてリサイクルもできる。

この日は会社関係者をはじめ建設に携わった業者らが出席。テープカット、くす玉で完成を祝い、あいさつに立った竹村社長は「国内有数の機能を誇り得るものと自負し、将来